

わたの丘

学校だより 第530号 (令和5年3月24日発行)



学校QRコード



全校球技大会より

令和4年度を終えるにあたって

お彼岸が過ぎ、日に日に温かさを感じるようになり、いよいよ春到来となりました。

保護者、地域の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育推進に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、3月15日に、第76回卒業証書授与式を挙行いたしました。感染予防のため、人数制限および時間短縮で実施いたしました。卒業生は3年間のすべてがコロナ禍の制限された中での中学校生活であっても学習に前向きに取り組み、自分たちの良さを発揮し、学校行事などを成功に導いてくれました。校長式辞では卒業生が入学した時にもお願いした二つの大切な心について話させていただきました。それは「思いやりの心」と「共に学びあう心」を持ってほしいということです。「共に学びあう心」については和田クエストなどの取組で仲間と協力し取り組めたことなど大変成長を感じましたが、「思いやりの心」については1年生の時から課題が見られました。しかし、持ち前の底力を発揮し、自分たちで解決できることも増え、自分自身をしっかりと見つめ直し、あとの生活に生かしていける力を身につけた卒業生もたくさんいます。「思いやりの心」を大切にすることはこれからの予測不能な世の中を生きて行く上で大変重要であることを改めて卒業式の式辞の中でもお話させていただきました。式の前日には、卒業式の当日に参加できない1・2年生が3年生を送る会を開いてくれて3年生のメッセージや合唱「手紙」を聴くことができました。1・2年生は、卒業生が刻んだ和田中学校の良き伝統を今後もしっかりと引き継いで欲しいと思います。

GIGA スクール構想によるネットワーク環境の整備がなされて、本年度もICTを活用した授業を積極的に進めてまいりましたが、生徒達はさすがにタブレットを使いこなすのが早く、指導する教員もICTの活用スキルを生徒と共に学ばせていただきながら授業を進めております。総合的な学習の時間で取り組む和田クエストにおいては1・2年生が次年度につながる新たな課題設定に取り組んでくれており、ICTを活用して取り組む課題解決学習を中心に今後も授業改善を進めていきたいと考えています。課題設定においては「考えてみたいこと」、「探究してみたいこと」、「不思議に思っていること」様々な視点から興味を持つことが大切です。こうして、



和田クエストの課題設定に取り組む2年生

課題設定に取り組み、ICTを活用する能力を高めている間にも、ICTの進歩やビッグデータの活用などは日進月歩です。AI(人工知能)が人間の能力を超える時点、いわゆる「シンギュラリティ」と言われている概念が実際起こることも十分考えられ、社会や人々の生活になんらかの大きな変化が起こることは避けられないと考えています。一方でこういったICTやビッグデータの活用などは我々の生活に大きく役に立っていることもしっかり理解しておき、共存していくことが大切であると感じました。

1・2年生は3年生が卒業し、次年度進級するにあたり、やり残していることもあると思います。1年生は何事にも前向きに、そして真面目に取り組める学年の良さを生かしてさらなる成長を期待したいですし、2年生は苦手な教科でもあきらめずに取り組み、学習に向き合う力を高めて、進路実現に向けた良いスタートを切ってほしいと思います。

次年度については、現段階で新1年生の生徒数が40名以下となり、通常学級は1学級となりますが、40名近くの生徒数での1学級では学習面でも生活面においても大変厳しく、生徒の負担も考えて、校内の体制を工夫して2学級にしたいと考えております。したがって、現段階においては3年生1学級、2年生1学級、1年生2学級、特別支援学級2学級でスタートする予定です。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、保護者・地域の皆様方には、この1年間、本校教育活動の推進に際し、様々な場面においてご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。国際情勢の緊迫は改善されないままであり、物価の高騰など我々の生活に大きな影響が出ている状態が続いております。また、コロナウイルス感染症に関わる制限緩和や5類見直しもなされる中ではありますが、子どもたちの安心・安全を今後も確保し、和田中学校を「落ち着いた中にも活気のある学校」へと向かわせ、「生徒の夢や希望がかなう学校」づくりに尽力してまいりたいと思います。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。令和4年度を終えるにあたってのご挨拶とさせていただきます。

校長 荒賀 洋
教職員一同